

化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて

1. ホームページ全体について

- ・ホームページ作成主体は環境省ではなく、環境情報普及センターが環境省の協力を得て作成するホームページという位置づけとし、ある程度の独立性をもった上での情報発信を行う (<http://endocrine.eic.or.jp/>)。
- ・ホームページの主なターゲット層は、出産育児に関わりを持ち、かつ環境問題にも関心を有する層とする。
- ・ホームページのタイトルは、日本語名「化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページ」、英語名「Official ED (Endocrine Disruption) Website」とする。
- ・コンテンツについては、化学物質の内分泌かく乱作用に関連する多分野の専門家等によるコメントや対談などを盛り込むこととし、常時更新することとする。
- ・詳細な説明ページの他に、簡単な Q&A のページを設ける。
- ・「内分泌かく乱作用は、化学物質が有する様々な作用の一面であり、化学物質についての総合的理解の中で解釈されるべきものである」「生態系への影響評価のためには野生生物に関する基礎的知見が必要である」「リスク評価のためには、有害性評価とともに暴露評価が必要である」「国内では様々な取組が実施されており国際的にも大きな貢献をしている」といった点が伝わるよう配慮する。

2. ホームページのコンテンツ

①内分泌かく乱作用について

- ・内分泌（系）について解説する。哺乳類だけではなく、生態系影響評価に用いられる他の生物種（魚類・両生類・無脊椎動物等）の内分泌系についての説明も含む。
- ・受容体結合や酵素阻害といった、代表的な内分泌かく乱作用の作用メカニズムについて説明する。ただし、内分泌かく乱作用は、これら一部の生体反応だけではなく、他の個体レベルでの様々な機能と関連づけて理解されるべきであることも解説する。

②生態系への影響について

- ・野生生物の異変のうち、内分泌かく乱作用との関連が指摘されている事例について紹介する（Global Assessment of the State-of-the-Science of Endocrine Disruptors : 「WHO グローバルアセスメント」を参考とする）。野生生物における異変について正しく理解するためには、まず野生生物につい

- での生物学的知見が必要であることも解説する。
- ・メダカを用いた生態系影響評価のための試験について説明する。試験法開発における問題点や、暴露の情報もあわせて解説する。
 - ・両生類/無脊椎動物といった生物種における試験法開発について紹介する。
- ③人健康影響について
- ・人健康影響として懸念される変化のうち、内分泌かく乱作用との関連が指摘されている事例について紹介する（Global Assessment of the State-of-the-Science of Endocrine Disruptors : 「WHO グローバルアセスメント」を参考とする）。
 - ・ラットを用いた人健康影響評価のための試験について説明する。低濃度の用量設定での試験実施における問題点についても解説する。
 - ・実際の生活における暴露量について紹介する。
- ④国内での取組について
- ・関係省庁/地方自治体/産業界/学界/市民等の取組を紹介する。
- ⑤国際的取組について
- ・国際機関（OECD/WHO/EU 等）/英国/米国等の取組を紹介する。
- ⑥シンポジウムについて
- ・国際シンポジウムの一般向けプログラムとの連携を図り、事前に一般向けプログラムパネルディスカッションの内容について情報提供を行い、それに対する意見募集等を行う。また、シンポジウム後は、シンポジウムの様子についてのレポートを掲載する。